

街中でオリンピックを体験「杉並タウン陸上」

6月3日午前11時から昼過ぎに、岩崎通信機株式会社の駐車場（杉並区久我山1-7-14）では、区内の健脚自慢の中学生20名ほどが参加して、ランニング教室とタイムトライアルが実施されました。この企画は、東京2020オリンピック・パラリンピックをみんなで盛り上げるために行われたもので、中学生たちが本格的な全天候舗装走路で30mタイムトライアルに挑みました。

本日6月3日と明日4日の2日間は、京王井の頭線久我山駅近くの神田川清水橋と玉川浄水岩崎橋周辺を舞台に初夏の訪れを告げる「久我山ホタル祭り」が開催されます。約2,000匹ものホタルが放流され、幻想的なホタルの光が楽しめまることもあって、近隣住民をはじめ、区内外から多くの見物客が訪れます。



その「久我山ホタルまつり」のイベント会場に隣接する岩崎通信機株式会社の駐車場では、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを盛り上げようと、「杉並タウン陸上」が開催されました。このタウン陸上は、杉並区陸上競技協会が主催したもので、区内では初めての開催となります。

岩崎通信機の駐車場の一角に、合成ゴムシート製の全天候舗装の走路が設置されました。この走路は、本格的なオリンピックスタジアムと同様のもので、区内の陸上部に所属する中学生20名ほどが、ランニングの基本を学んだ後、30mタイムトライアルに挑戦しました。また、このスターターには、東京オリンピックの100m決勝でも審判員をしていた野崎忠信さん（79歳）です。野崎さんは、100mの決勝を1回でスタートさせたいという執念で、外国人選手に日本語の「位置について」「よーい」「どん」という言葉の意味を伝えたり、そのタイミングを研究したことで有名です。中学生たちは、野崎さんのスタートの合図で30mを全力疾走。男子は、4.5秒、女子では5.0秒の最速記録となりました。

陸上競技協会の小松会長は、「2020年には、いよいよ東京で世界のアスリートの熱い戦いが繰り広げられます。ぜひ、本物を自分の目で見てもらいたいと思います。そして、この中学生の中から五輪の舞台に立つ選手が現れたらうれしいです。」と話していました。午後には小学生を対象とした「ちびっこタイムトライアル30m」も行われ、幼児から小学生までの250名ほどがタイムトライアルに挑戦し、一人ひとりに記録証を手渡すことになっています。

【問い合わせ先】

総務部広報課：03-3312-2111 内線1502